



【符号の説明】

T: 送電線鉄塔、A: 鉄塔アーム、B: V吊懸垂がいし装置、
B1, B2: がいし連、C1 ~ C4 : 仮支持用懸垂クランプ
1a, 1b, 11a, 11b: 取付金具、10: V吊懸垂がいし装置用取替工具、
12a, 12b: 連結棒、12a', 12b' : ターンバックル、13: 上部ヨーク金具、
14: 下部ヨーク金具、15: 伸縮機構、20a, 20b: 連結片、 ~ : 導体

第1図 V吊懸垂がいし装置の取替方法と工具を示す図

発明の特徴

鉄塔アーム補強作業の省略(施工時間の短縮)

施工時の鉄塔アームへ加わる荷重は、V吊懸垂がいし装置が導体を支持している時とほぼ同じ状態に保つことができるので、鉄塔アームを補強する必要がなく、施工時間の短縮が可能です。

安全かつ確実な施工が可能

導体を一旦下部ヨーク金具で仮支持することにより、がいし装置取替時にも確実に導体を支持できます。

油圧シリンダを用いた伸縮機構により、がいし装置の荷重を安全確実に仮支持部材に移すことができます。



第2図 V吊懸垂がいし装置の取替状況

執筆者 / 八木竜之介
Yagi.Ryuunosuke@chuden.co.jp

News at Home and Abroad 内外ニュース

電力技術研究会シリーズ

電力施設専門部会は、送電線、変電所など電力流通設備の技術開発に関わる社外・社内の委員20名(大学関係6名、メーカー関係2名、当社委員12名)で構成されています。

毎年3回開催している部会では、年度当初に定める活動方針のもと、電力流通設備に関する研究開発に関する意見交換や内外の技術動向紹介などを行っています。

近年は電力自由化が進展する中で電力流通設備に課せられた喫緊の課題である「設備の劣化異常診断・延命化技術」をはじめとした保守・運用技術に関する研究に対しての議論が主体となっています。

一例として、1960年以前に構築された経年マンホールの強度診断についての研究では、現地のマンホールでの実測により求めた圧縮強度から推定したコンクリート引張強度と、埋設条件から計算したマンホールに発生する引張応力の比較で評価を行うとの紹介に対し、委員からマンホール周囲の土は経年により固まりマンホールの変位を拘束するので、計算よりも小さい引張応力となり強度に余裕が得られることがあるので検討の余地があるとの助言を受けました。

また、画像処理により変電所の故障点を精度よく捉える装置など新技術の開発成果をいち早く紹介して意

電力施設専門部会

見を受けるなど、より高い研究成果を得るための貴重な意見交換の場となっています。

このほか、電力流通設備に対する理解をより深めるために、電力施設の建設現場などの視察を行っており、過去に名城変電所、中部国際空港変電所などの視察を行ったほか、今年は電力設備の技術開発の歴史を集めた弊社電力史料館(日進市)の見学を行いました。

電力施設専門部会は今年末で第90回の開催を数えます。今後も、産学連携、多様な専門分野の委員の集結による高度で多角的な議論を行い、電力流通設備の維持・構築技術の向上に寄与する活発な活動を展開していきます。



画像処理形故障点標定装置の試験状況